

事例19

< 事例概要 >

人工股関節全置換術

- ① 70 歳代前半、体重50 kg 台の患者。
- ② 変形性股関節症に対し、人工股関節全置換術を施行。
- ③ 寛骨臼の切削で寛骨臼後方部を欠損し、骨髄性出血が増加した。カップを固定したが安定せず、ドリルとスクリューを数回挿入。血圧50 mmHg台となり、赤血球液と昇圧薬の持続投与を開始したが、心拍数100 回/分台、Hb 6 g/dℓ 台。術中出血量2,600 mℓ。退室時血圧80 mmHg台、心拍数90 回/分台。
- ④ 病棟帰室時、血圧60 mmHg台。顔色不良、創部から出血が持続、Hb 8 g/dℓ 台、腰痛あり。血圧40 mmHg となり、赤血球液を投与。約1 時間後、血圧測定不能、心拍数100 ～ 110 回/分台。下顎呼吸となり、気管挿管。新鮮凍結血漿、昇圧薬を投与したが、帰室約5 時間後に死亡。
- ⑤ 死因は、血管損傷（骨髄性出血含む）による出血性ショック。死亡時画像診断（Ai）有（後腹膜腔の出血）、解剖有（後腹膜腔の小血管の損傷）。